

週報

国際ロータリー第 2660 地区

令和 4 年 3 月 15 日



SERVE TO CHANGE LIVES

2021~22 年度

国際ロータリー会長

Shekhar Mehta

(奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために)

豊中ロータリークラブ

第 2528 号

広めよう ロータリーの心 地域とともに

創立 1959 年 6 月 16 日

Rotary



2021.7~2022.6

会 長 森本博明

副 会 長 北村公一

幹 事 小川佳伸

雑誌・広報・会報委員長

澤木政光

本日 (3 月 15 日) のプログラム
「社会奉仕月間に因んで」

地区社会奉仕委員会 副委員長
大阪鶴見 RC 山崎 修一 様

社会奉仕委員長 : 武枝敏之

次回 (3 月 22 日) のプログラム
「豊中 RC の奨学生として」

— 私が感じた日本 —

豊中 RC 奨学生 : LiJyao

☆会長の時間☆

「豊中 RC 第 9 回定例理事会 (新旧) 報告」

2021-22 年度 会長 森本博明

大阪府の蔓延防止措置の再延長が 3 月 21 日までとなりました。その為 3 月 15 日の例会及び 3 月 1 日の例会は休会になりました。本日は 3 月 1 日の理事会報告を中心にお話させていただきます。例会は中止ですが、今年度及び次年度にとって大変重要な時期でもありますので現理事、被選理事で合同理事会を開催いたしました。

報告事項としては、春の家族会は 4 月 17 日 (日) 天橋立で決定しました。年末家族会の会計報告に関してはコロナ禍の影響で会費が全て集金されていないので赤字になっております。豊中 RC 奨学生 Li さんが 3 月で終了。東京の会社に就職が決まりました。3 月 22 日の例会で卓話をしてもらいますので Li さんの交通費 ¥30,000 円を当クラブで負担します。

議題としては、

- 1.大阪のロータリー100周年誌の為の原会員のメッセージ動画を理事会で視聴した結果、再度撮影していただくことになった。
- 2.国際奉仕活動に参加の可否については次回もシーロム RC と進めて行く。
- 3.新しい留学生の件については宮田会員からの説明で大阪大学基礎工学部では見つからなかったため 4 月から 9 月までの短期で大阪大学大学院理学研究科化学専攻のフランス人男性 Emre Yesil さん 28 歳を受け入れます。後日面接をします。
- 4.レトルトカレー1,000 食分納品完了した。後日広報誌に掲載していただく。
- 5.こども食堂に対する地区補助金申請の件についてはレトルトカレーの地区補助金申請 (District Grants : DG) をする。60 万円の内 30 万円を地区からの援助をしてもらう。
- 6.豊中ロータリークラブのインスタグラムの立ち上げに関しては会員にお知らせして立ち上げる。
- 7.事務局の件に関しては事務局からのお願いとして「4 月からの勤務時間を 9:00~15:00 迄としていただきたい」と言う事で了解した。今後不都合があれば再検討する。覚書の件に関しては事務局に了解を得たので進めていきます。
- 8.休会に伴う記念品の件は (現金を) 返却するかどうか検討することになった。

今回休会中に理事会を開催させていただいたのは、一番にコロナ禍の影響で例会休会が続くために色々な案件が先送りにされていること。特に 3 月から 6 月は毎年次年度スタートへ向けての大変重要な時期になっていること。それと会員の皆様には多大なるご不便ご迷惑をお掛けしていることです。また 3 月度理事会後の 3 月 3 日 (木) に地区からの「ウクライナ危機」緊急人道支援金協力依頼があり、早急にしたい方が良く判断しましたので前回のトンガ支援金と同額 ¥50,000 送金してもらうように 3 月 4 日に事務局に指示しております。当クラブとしましても今後予期できぬ事態に備えて会員の皆様のお力添えそしてご支援を賜りますようお願い申し上げます。
(令和 4 年 3 月 11 日)

四つのテスト 1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか

事務局・例会場 : 〒560-0021 豊中市本町 3 丁目 1 番 16 号 ホテル アイボリー内

TEL 06-6858-1551 FAX 06-6857-0011

例会日時 : 毎週火曜日 12 時 30 分より

事務局 : 10 時~16 時 (土日祝を除く)

HP アドレス : www.sun-inet.or.jp/~jtrc2660/

メールアドレス : jtrc2660@sun-inet.or.jp

○幹事報告○

- ・国際ロータリー第2660地区
「2022年3月「ウクライナ危機」緊急人道支援金ご協力のお願い」が届きました。
「ロータリー全国囲碁大会案内状配布のお願い」が届きました。
「2021-22年度ガバナー月信3月号 送付のご案内」が届きました。
- ・大阪西ロータリークラブより
「2021-2022年度春のRYLAセミナーのご案内」が届きました。

☞ 掲 示 板 ☞

- ・第2回ガバナー補佐訪問
日 時：2022年3月22日（火） 例会時
場 所：ホテルアイボリー3F 例会場
- ・PETS
日 時：2022年3月26日（土）
場 所：詳細は追ってお伝えします。
- ・第10回定例理事会
日 時：2022年4月5日（火） 例会終了後
場 所：ホテルアイボリー 例会場

☆3月受付当番☆

チーフ：小牧義昭会員

3月15日 眞下 節会員、松本 悟会員
3月22日 田中正一会員、豊島了雄会員

◎副幹事・副SAA当番◎

3月副幹事 松本拓朗会員
3月副SAA 小牧義昭会員

第6回ZOOM談話室報告

令和4年2月21日20時開催

参加者：岩本、小川、北村、米田、小寺、都井、畑田、真下、松山、宮田、村司、森本（敬称略、五十音順）

今回はコロナ禍のため中止になった国際奉仕委員長・小寺会員による「国際奉仕」についての卓話とフォーラム（要旨は令和4年2月15日発行の週報第2526号に誌上卓話として掲載）に対して、あらためてZOOM談話室で「豊中ロータリークラブの国際奉仕活動について」のお話をさせていただきました。これまでの当クラブの国際奉仕活動の状況、マッチング・グランドからグローバル・グランドへ移行した現状、今後の継続について詳しく話された。会員から「相手クラブ選択について」、「事業その後の検証の必要性」、「担当者の個人的な負担が多い」等、多くの発言がありました。以上のほか、「フォーラムはやるべきか、毎回参加者が決まっている」、「例会やフォーラムの出席は会員の義務ではないか」、「会員減少時の委員会の整理の必要性」、「副幹事の理事会の出席」、「今年度は引継ぎを重点的に行う」、「細則・標準定款・クラブ定款間の記述のずれの訂正が必要」、「新しい奨学生」等についての発言がありました。

（文責北村公一）

☞3月1日の誌上卓話☞

「合気道について」

卓話担当：南原 淳



合気道についてみなさんご存知でしょうか？柔道・剣道・空手のようにオリンピックや世界大会もなく、テレビ等でも取り上げられることはないため、そもそも興味を持たれる対象ではないのかもしれませんが。

合気道は昭和の初めに開祖 植芝盛平先生（1883-1969）が、それまでの日本に伝わる柔術や古武術からの「技術的な体系」、そして大本教の出口王仁三郎師や神道からの影響を受けて作り上げたもので、「愛と和合」の武道を標榜されました。

合気道の外形的な特徴としては二人一組で行う形稽古方式であるということがあります。

そして試合がありません。通常のスポーツは試合形式であり勝ち負けがあります。勝ちにこだわると、試合において自分のパフォーマンスを伸ばすことは当然として、相手のパフォーマンスを下げる、即ち、弱点をつくことや相手の利点を弱めることで試合に勝つという原理に立たざるを得ません。

合気道は別の原理に立っています。勝敗はなく他人と強弱優劣を問うことはありません。むしろ組合う相手の身体的特徴（身長、体重、重心等）を感じつつも、決して相手に自分を合わせるわけでもなく、自分が整うことで相手も整い、二人一体での技術と身体を練り上げる感じでしょうか。

合気道は一定の呼吸法を元に激しい動きを行い、繰り返し技を練っていくことで一種のトランス状態（瞑想）に入ることを重要な訓練方法としていますが、合気道が盛んなヨーロッパでは、合気道はしばしば「動く禅」と呼ばれています。

個人的に合気道において大切だと思うことは「とらわれない」ことだと思っています。勝敗はない武道とはいえ実際に稽古をしていると「とらわれる」事が多くあります。他人と自分との巧拙の比較あるいは自分が思う理想にとらわれ、相手の特徴を感じた動きを行おうという意識を持つこと自体も”既に相手の特徴にとらわれている”といえます。古の格言は的確なもので、「とらわれる」と確実に「肩に力が入り」ます。

呼吸を整え、自分を整え、丹田に気を溜め、目は相手を視界に入れる程度で直視はせず、むしろ遠山を見る感覚で技を行う。この繰り返しで平常心を持ったまま全ての状況における技に対応することが重要です。その意味ではこの心境を日頃の生活に活かすことが実は最も大切なことだと思っています。

「とらわれない」という境地の重要さやは、仏教、特に禅、或いは世間の各所で言われておりますが、そこへ合気道を通じてアプローチしていくという過程が自分には合っているように感じています。

さて、私が合気道を始めのきっかけは近所に道場が出来たという単純な理由です。道場名は凱風館、師匠は内田樹先生といます。ご存じの方もいらっしゃると思いますが、フランス文学者、神戸女学院大学名誉教授、であり武道家（7段）です。先生はとにかく表現がユニークで唯一無二の表現で武道の動き、術理の説明をされます。曰く、「蕎麦屋の暖簾をくぐるように腕を返す」「一粒の雨を掌で受けるように腕を伸ばす」、（相手に腕を掴まれていても）「掴まれている相手の腕は全く気にせず、単に自分の指先で鼻の頭を搔きに行くように手を上げる」。術理を技術的な側面だけではなく、「とらわれない」という意識面からの表現も取り入れとても腑に落ちるお言葉だと毎回感じています。

先生がこういった方なので、東京から弟子入りに来る方も居ます。門人は200人程居ますが、不思議なことに各種学校、塾等の教授・教師などの教育系、そして医師、整体師や療法士などの医療系の方が多い、ついで建築家や音楽家などの芸術系、政治家も居ます。農業、漁業や神職の方まで幅広いですが、一般企業のサラリーマンは少数派です。

昨年は農閑期の11月に1ヶ月だけ沖縄から来て道場の横の施設に寝泊まりし合気道三昧の生活をおくり戻っていかれた方などいました。

人生の先達の皆様の前でこういうことを書くには気恥ずかしい限りですが、私はこれからも毎朝、「今日一日、怒らず・恐れず・悲しまず、正直・親切・愉快地、力と勇気と信念を持って自己の人生の責務を果たし、常に平和と愛とを失わざる、真の人間として生きることを誓います」という誦句を唱えながら一日を初め、「とらわれない」が「同化する」、「自分を整える」ことをテーマに合気道を続けていきたいと思っています。